

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673200263		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム京田辺		
所在地	京都府京田辺市興戸郡塚57-3		
自己評価作成日	平成28年10月26日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2673200263-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カンファレンスや日々の会話の中で、職員同士が利用者様個々のできる事・できない事・ニーズを話し合い、楽しく生活して頂ける様に関わっている。地域との関わりにも重点を置き、なごみカフェを通じ、地域の児童や高齢者を招き地域交流を図っている。夏祭りでは年々参加者数が増えており、今年度は170人程の地域の方が来訪され、金魚すくいやヨーヨーすくい・ビンゴゲームを楽しまれる。この地域にはグループホームの夏祭りやなごみカフェを楽しみにして下さる方が多くいる。当グループホームの畑には畑ボランティアの方が来て利用者様と共に農園の管理をして頂いている。ボランティアの方も畑ボランティアだけに留まらず、絵手紙のボランティア等、グループホームへ幅広く協力くださっている。地域もグループホームも楽しく共に支えあえるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域の方との関わりを大切にしており、ホームの夏祭りや餅つき大会、菜園で収穫した焼き芋会は経年の中で地域にも浸透し、ボランティアの協力と共に多くの方の参加を得て交流しています。また月に1度のカフェの開催や週に1度菜園の世話や歌や踊り、絵手紙などのボランティアの来訪も多く、地域の子供が気軽に立ち寄ることもあり、地域に開かれた交流を実現しています。また家庭的な雰囲気の中で利用者は来客へのお茶出しや調理などの家事、ホームのお茶会でお点前を披露する方など職員は一人ひとりの得意なことやできる力を引き出し、活躍したり役割の持てる暮らしの提供に努めています。また年に1度家族にも声をかけ利用者の行きたい場所に出かける個別外出は、家族にも好評で次年度は年に2回に増やす等思いに添った外出にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を元に、当グループホームの理念【楽しく共に支えあい生きる】を定めている。また、職員間に留まらず、地域に向けても共に支え助け合う精神で取り組んでいる。	開設時に職員間で話し合い家族や地域の方も含めて利用者を支えたいとの思いを込め作成されたホーム理念を継続し、玄関に掲示すると共に毎朝唱和し意識づけをしています。また理念の実践に向けて年度目標や月目標を決め、カンファレンスで達成状況を確認しながら継続や新たな目標を決め理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と道で会えば挨拶や会話を交わし、地域児童が登校する際も挨拶を交わしたり見守りをしている。また、定期的にボランティアが来訪され、なごみカフェ等の行事にも参加頂き、交流の場となっている。	ホームの夏祭りや月に1度のカフェの開催、餅つき大会や焼き芋会等は地域にも浸透し、ボランティアの協力と共に多くの子供を含む来訪者があり、ゲーム等を共に楽しんでいます。また広い菜園はボランティアが世話や管理を担い、歌や踊り傾聴等のボランティアの来訪の他、学校帰りの子供たちが気軽に出入りしており、地域に溶け込んだ交流をしています。また神社の盆踊りや文化祭等の地域行事にも利用者とは出かけしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度、認知症サポーター講座を実施し、認知症の方の理解に努めている。又、月に1度、地域の方に向けてなごみカフェを開催し、交流を図る場を持ち認知症の理解に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・市役所の職員等、参加され2ヶ月に1度開催をしている。行事や利用状況等を報告し、情報交換をしている。不参加であった場合でもレジュメや議事録を後日手渡し、情報共有をしている。	会議は利用者や民生委員、市職員や地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催し、ホームの状況や活動等の報告を行い意見交換をしています。市職員から権利擁護等の研修案内を受け、職員と共に家族も参加できるよう知らせたり、涼やかスポットの取り組みに参加している方が楽しめるカラオケセットを導入する等、意見を運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着合同会議が定期的に行われている。又、市の職員も参加され、京都市のグループ協議会でのネットワーク等について話され、学ぶ機会となっている。	市担当者は運営推進会議に参加を得ており、ホームの状況を把握してもらっています。分からないことは随時電話で相談したり、更新手続き等で訪問した際は担当者と言葉を交わし情報交換をしています。日頃から関わる機会も多く協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関先の鍵は施錠せず開放されている。リビングから玄関の様子が良く見え、開放的な作りになっている。利用者が外に行かれる際は、側でそっと付き添い見守っている。	身体拘束については法人内でも重要な研修として位置付けられ、全職員を対象に年に数回研修を実施し、身体拘束に関する報道があった際にも本部から注意喚起の案内が届き職員に周知徹底しています。利用者の思いに添った支援を大切にしており、言葉での制止や玄関等の出入り口の施錠は行わず職員間で連携し利用者の自由な行動を見守っています。	

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣時に、体全体に傷やアザが出来ていないか確認し注意を払っている。傷やアザが発見された場合は、事故報告書を作成し、カンファレンスで事故の原因究明と対策を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修が年1度開催され、学ぶ機会になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、説明を行い契約をしている。入居1ヶ月で家族に入居時の説明等のアンケートをとり、退去時にも同様のアンケートをとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・職員にアンケートを実施している。要望等があれば記入して頂き運営に反映させている。	面会時や行事など家族の来訪時には利用者の様子を伝える中で意見や要望を聞いたり、年に1度法人によるアンケート調査が行われています。家族からは身体状況の維持や外出の機会などの要望が出され、訪問マッサージの導入や散歩や体操の機会を増やしたり、年に1度実施している利用者の行きたい場所に出かける個別外出を年2回に増やすなど、意見を反映した取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、カンファレンス・アンケートの実施を行い、職員の意見や提案を反映させケアの向上につなげている。	職員の意見は毎月のカンファレンスや家族と同じ内容で実施しているアンケート調査、年に2回の面談の他、管理者は日々の業務の中でも随時意見や提案を聴き個別の相談にも乗っています。職員の意見を受けて職員間のより良い連携の在り方について話し合ったり、ケアの悩みや相談ごとなども出されており、具体的な支援の方法やケアのアイデアなどを出し合い支援に活かせるよう話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2度、自己申請書を元に面談を行い職員自身から意見を聞いたり、日々の利用者様との関わり方から、職員1人1人の状況や思いを把握し、声掛けを行う事で向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量評価を実施し、力量の把握に努め研修参加を促している。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域合同会議に参加して情報公開や他施設にも利用者様と共に施設見学・夏祭り等にも来て頂き交流の場となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が、月1人ずつ利用者様との関わりを振り返り、利用者様の悩み事や困り事・ニーズを職員全員で共有し、関係性作りに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様に悩み事・困り事・要望を聞き取りをしている。又、ケアプランの更新時や面会に来訪された際には、日々の利用者様の様子をお伝えし、要望を聞く等、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時やケアプランの更新の際には必ず電話をし、利用者様の状態と家族様の希望を必ず確認する様にしている。その時々に合わせて、他サービス(他施設)の紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は自らして頂ける様に支援しており、できない事に対して援助をし関わりを持っている。又、職員のできない部分を教えて頂いたり助けてもらいながら、共に生活し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の家族様が来られた際は、必ず職員も会話をし、利用者様の様子を報告し関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人様が来られた際は、利用者様の新たな一面を知るきっかけ作りの場になっている。面会に来られた際は、ゆったりと会話ができる環境や遠方に居られる方には葉書等を送り、関係が途切れないようにしている。	友人や同僚、教え子などの来訪があり、プライベートな時間を楽しめるよう居室に案内しお茶などを出したり、利用者の状況によっては職員と一緒に付き添っています。また個別外出の日があり昔行っていた競馬場や馴染みの場所での買い物、好きな寺巡りや仏像などを見に出かけています。また知人に電話をかけた時、年賀状や絵手紙を出す方もおり、宛名書きと一緒に投函する等関係が継続できるよう支援をしています。	

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ居室に籠りがちにならない様に、絵手紙やレクリエーション等を通じ、リビングで会話ができる様にしている。大勢が苦手な方には、職員が同行し職員と共に農作業を畑で行う等、工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を行い、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新を行う際等、定期的に利用者様本人や家族様に希望を伺う様にしている。 面会に来られた際は、日々の記録から選出して相談している。	入居に向けての面談でこれまでの生活歴や趣味趣向、暮らしへの希望等を聞き、担当していたケアマネジャー等から得られた情報と共にまとめ職員間で共有しています。入居後は日々の利用者の様子や職員が気づいた内容を記録に残し、思いの把握が困難な場合は職員がマンツーマンでゆっくり関わり、少しずつ思いを聞き取ったり、家族の面会時にも聞き把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後にセンター方式やアセスメントシートにて情報収集を行い、利用者様1人1人に合わせたその人らしい、生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や24時間シート・振り返りシート等を活用し、状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新の度に利用者様本人・家族様および、関係機関(医師・看護師)より意見を集め、介護計画に反映している。	介護計画作成時にはカンファレンスを開き「希望記入用紙」を用いて事前に確認した利用者や家族の希望、主治医や訪問看護師の意見などを基に職員間で話し合い作成しています。6か月毎にカンファレンスで話し合った内容などを反映しながらモニタリングと評価を行い、状態が安定している利用者は1年毎に介護計画を見直しています。介護計画の見直し時には再アセスメントを行い利用者の現状を把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記載と日々の申し送りで情報共有している。カンファレンスや振り返りシート等で、定期的な見直しを行っている。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・喫茶・ドライブ等、必要に応じて援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・消防署職員・社会福祉協議会職員等、様々な機関を利用し、総合的に援助している。京田辺市いきいきポイントの受け入れ施設となり、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に今までの医療機関を継続利用して頂いている。特に希望が無い場合は、当事業所と契約している医療機関に協力を得ている。眼科や歯科・鍼灸院は、在宅時にかかっていた医療機関の継続利用が多い。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることやホームの協力医についても説明し決めています。かかりつけ医を継続している方の受診や専門医への受診は職員が付き添い、受診結果はその都度家族に報告しています。定期的な協力医の往診の他、定期的な往診を受けている協力医や訪問看護師とは24時間連絡が取れる体制があります。また希望や必要に応じて訪問歯科や訪問マッサージを受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度看護師の訪問があり、その際は報告・連絡・指導の機会がある。また、必要に応じ訪問看護ステーションに電話にて指示を得るシステムがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人として、地域連携課職員(対外活動専門員)を配置し、また管理者や計画作成者も医療機関相談員と密に連絡を取る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に【看取り】について説明を行っている。該当ケースが発生した場合は、環境を整えて終末期対応ができる様に、と言うのが法人として基本方針である。	入居時に法人の担当者から終末期のホームの対応について説明しています。利用者が重度化した場合は医療行為の必要性や職員の体制などを踏まえ医師や家族、職員の三者で方向性を話し合っています。体調を崩し入院となる方が多くこれまでに見取り支援の経験はありませんが、将来的に支援を行う際には医師や訪問看護師などの協力を得てケースごとに研修を行う予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修参加、及び法人共通のマニュアルに沿った対応を行うようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消防訓練を行い、災害に備えている。 定期的に水やビスケット等の常備確認をしている。	年に2回昼夜を想定した初期消火や避難誘導などの訓練を利用者と共に行い、1度は消防署の協力が得られるよう依頼をしています。また2ヶ月に1度夜間を想定した訓練では安全に避難できるタイムを計ったり、コンセントの埃や連絡網が機能しているかなどを確認しています。運営推進会議で訓練の予定や報告を行い、訓練時には近隣に声をかけ協力を依頼しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所としての理念を設けて、利用者様の対応に配慮している。 玄関先・事務室に理念を掲示している。	利用者の尊重やプライバシーについては理念にも含まれており、入職時や年に1度研修を行い職員に周知しています。利用者への声掛けは基本的には敬語を用いて利用者に合わせて対応に努め、着替えや排せつ介助の際は羞恥心にも配慮をしています。また職員の声掛けや対応に問題があった場合はその都度管理者が注意し、職員間でも注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問方法や時等、その人・時々に応じて、オープンクエスチョン・クローズドクエスチョン等を用いて、援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく自宅で過ごされていた生活に近づける様に、入居時より生活リズムをリサーチを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日や敬老会等、利用者様本人に似合うような洋服等をプレゼントする機会がある。家族様に着慣れた洋服を持参頂いたり、必要に応じ、洋服の購入も家族様と相談の上、行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接利用者様本人に嗜好を聞いたり、食べ物残渣量から好みの調査をしている。 食材の下ごしらえや片付けは、利用者様に応じ、職員と共に行っている。	献立は利用者の好みや土用の丑等の暦の上での行事食や畑の収穫物等を取り入れて決めています。利用者はできることに携わり一品作れる方や盛り付けは殆ど利用者が行っており、家庭的な雰囲気の中で職員も一緒に食事を摂っています。また月に1度の出前や敬老会では家族と共に料理屋へ行ったり、個別に寿司やレストランへの外出に出かけています。スイートポテトやぜんざい等のおやつ作りも一緒に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態は利用者様個人個人に合わせて提供している。食事・水分量の少ない方には、個別に摂取表を作成し健康管理に努めている。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・入床時や毎食後等、口腔状況に応じ、歯ブラシや舌ブラシ等必要に応じ対応している。 又、変化があれば訪問歯科医と連携し、状態の改善に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて個人の排泄間隔を把握する様に努めている。利用者のサインを読み取り、適時・適切に排泄誘導を行っている。	排泄記録や利用者の様子を見ながら一人ひとりに合わせて声を掛けトイレに案内し、必要な支援を見極めできるだけ自身で排泄ができるよう支援をしています。夜間のみポータブルトイレを使用する方やサンプル品を試し本人に合った物を選択できるよう業者にも相談をしています。失敗が多くおむつを使用していた方が支援を継続することで布の下着で過ごせるようになるなど、自立に向かうよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様個々の体質把握に努め、バナナや牛乳・ヨーグルトといった食材を提供する様にしている。緩下剤を使用する場合もあるが、1日の水分摂取量や運動量にも配慮し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や利用者様に応じた時間やタイミングで入浴して頂ける様にしている。 季節毎に、利用者様の要望を受けレモンや柚風呂等も行っている。	入浴は毎日準備し、少なくとも週に3回は入れるよう午後から声をかけ、希望があれば多く入ったり、午後の8時頃までは対応しています。できるだけ同性介助に配慮し家族が持参したシャンプーを使用したり、乾燥する季節には入浴剤を入れ、柚子やしょうぶ湯、庭のレモンなども入れ入浴を楽しんでもらっています。入浴を拒む方には職員の交代や時間をずらすなど工夫しながら無理のない入浴に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息(臥床)する時間や、就寝時間は個々人で様々である為、寄り添った対応を行っている。又、気温・室温にも注意し、快適に休息頂ける様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個々人の処方箋に毎回目を通し、確認作業をしている。利用者様の服用しやすい形状を考慮し、往診毎に、主治医と相談を行ない錠剤・顆粒・粉剤と変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の要望や生活歴から楽しみや役割を模索し、ケアプランに取り入れつつ、気分転換の場・社会貢献の場を提供している。		

洛和グループホーム京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の希望で買い物や喫茶・ドライブ等に出かけている。また、利用者様が玄関等から外へ出られる際は、引き止めず散歩や畑に行く等支援している。	散歩や買い物、ドライブの他、庭の掃除や広い駐車場や畑にはベンチを置き、日常的に多くの外気に触れる機会を作っています。文化祭等の地域行事や神社への初詣、桜の花見や紅葉狩り、敬老会では普段は行けない場所へ遠出をしています。また個別外出に力を入れており、家族にも声をかけ買い物や競馬場、仏像を見に行く等、利用者の行きたい場所へ出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身で金銭の自己管理をされている方もおり、買い物時はおやつ等、自由に買える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用は深夜を除きいつでも使って頂いている。家族からの手紙や葉書等に対して、返事を書き、投函までできる様、職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに木を入れ、季節毎に応じて桜や紅葉・電飾などで飾り付けをしている。季節に応じた、作品作りも行い、生活感を取り入れている。 遮光カーテンやテレビの音など刺激になり過ぎないように配慮している。	リビングには花を活け満開の桜や紅葉等を効果的に演出し季節感に配慮したり、和室には円卓が置かれ、利用者が暮らしてきた昭和の家庭的な雰囲気作りを行っています。またテレビの前のソファや廊下にも休憩できる椅子やベンチが置かれ、利用者が好みの場所を自由に選べるようにしています。日々の掃除や換気、温湿度計を多く置き頻回に確認しながら快適に過ごせるよう空間作りを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やリビングソファ・廊下ソファ等、思い思いの場所で過ごせるように配慮している。 仲の良い者同士会話をしたり、職員が仲を取り持つように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の使い慣れた家具を持参頂き、配置等のコーディネートを行い、過ごしやすい空間作りをしている。	入居に向けては使い慣れた物を持ってきてもらうよう家族に伝えています。筆筒やベットの家具の他、仏壇を持ち込む方もおり、家族と相談しながら過ごしやすいよう配置しています。また家族や思い出の写真を飾ったり、編み物等の趣味の道具も持ち込んでもらっています。居室は洋室と和室があり、自宅で過ごしていた時と同じように布団を敷いて休んだり、炬燵に入りテレビを見る方等生活習慣に合わせて過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の関わりの中でできる事・できない事を把握しできる部分にはご自身でして頂く援助を行い、自立した生活が送れるようにしている。		